

平成 29 年 11 月 27 日
(2017 年)

第三学年保護者の皆様へ

吹田市立第三中学校
校長 山口 廣 治

平成 29 年度 全国学力学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「平成29年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と数学に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の分析

□ 国 語

《結果の概要》

○国語A問題（主として『知識』に関する問題、総問題数32問）

- ・基礎的、基本的な知識・技能が身につけているかどうかをみる問題である。本校の正答率は全国値とほぼ同じである。
- ・評価の観点では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で、本校の正答率は全国値をやや上回った。漢字の読み書き、語彙力を問われる問題では多くが全国値をやや上回っている。

○国語B問題（主として『活用』に関する問題、総問題数9問）

- ・基礎的・基本的な知識を活用することができるかどうかをみる問題であった。本校の正答率は全国値とほぼ同じである。
- ・評価の観点では、「書く力」の領域の中で、「集めた材料を整理して文章を構成する」という選択式の問題で、本校の正答率は全国値を上回っている。しかし、同じ「書く力」の領域でも、「表現について捉え、自分の考えを書く」という記述式の問題では、本校の正答率は全国値を下回り、無回答率も高い。

《課題と今後の取組》

- 漢字の読み書きを覚えるだけでなく、語彙力を伸ばしていかないといけない。

毎週行う漢字テストや意味調べなども丁寧に行い、授業中に国語便覧、辞書なども適宜用いて、語彙力の底上げをしていきたい。

- 文章を読み取ることはできているが、内容をふまえて自分の言葉で文章を書くことが苦手としている生徒が多い。授業で作文練習・テストを継続して行い、「書く力」を伸ばす工夫をしていきたい。

□ 数 学

《結果の概要》

○数学A問題（主として『知識』に関する問題、総問題数36問）

- ・基本的な数量や図形について、知識・技能が習得できているかどうかをみる問題である。本校の正答率は全国値を上回った。
- ・学習指導要領の領域別では、「数と式」「図形」「関数」のすべての領域で全国値を上回っている。
- ・基本的な計算においては、ほとんどの問題で全国値を上回っている。
- ・ほとんどの問いにおいて、全国値を上回るかほぼ同等であったが、文字式に合う内容を選ぶ問題、平行移動をした図を描く問題、平行四辺形の作図の理由を答える問題、確率の問題においては全国値を下回っている。
- ・関数の意味や相対度数という言葉の意味を使った問題では無答率が高い。全体としては無答率の平均値は、全国値を下回っている。

○数学B問題（主として『活用』に関する問題、総問題数15問）

- ・基礎、基本的な数量や図形についての知識・技能を発展活用することができるかどうかをみる問題である。本校の正答率は、全国値をやや上回っている。
- ・学習指導要領の領域別では、「図形」「関数」「資料の活用」のすべての領域で全国値をやや上回っている。
- ・ほとんどの問いにおいて、全国値を上回るか、ほぼ同等であったが、対称に関する平面図形の問題、資料の整理についての問題は全国値を下回っている。
- ・記述式の問題では、正答率は全国値と比べて同等だが、無答率が全国に比べてほとんどの問題で高い。

《課題と今後の取組》

- 4年前より引き続き行っている「授業開始テスト（JKT）」の成果として、計算力を問われる問題で、全国値を上回ることができている。今後もJKTを実施し、計算の反復練習をすることで、基本的な計算力を高め、数学に関する関心意欲を引き出していきたい。

- 数学Bでは、記述式の問題で全国値と同等だったが、無答率が高いので、今回実施された国語科・数学科のみならず、文章で自分の考えを表す力をつけるために、全教科・全領域で書くことにもこだわった指導を行い、テストにおいても記述式を増やしていくように考えていきたい。

2. 「生徒質問紙」に関する調査の分析

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査である。質問は全部で70問であったが、ここでは特徴的な結果が出た質問に関してのみ取り上げている。

基本的な生活習慣

- ・朝食の摂取率、起床時間に関する質問は全国平均とほぼ変わりはない。
- ・一日当たりのテレビ・ビデオ・DVD視聴時間に関する質問は、4時間以上と答えた割合が全国を上回り、視聴時間においては課題が見られる。
- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットの使用時間が4時間以上と答えた割合は全国を上回り、使用時間においては課題が見られる。

家庭学習等

- ・家で自分で計画を立てて勉強をしているかという質問に対して、「している」「どちらかといえばしている」と答えた割合は、全国、大阪府と比べてやや下回っている。
- ・家で学校の授業の予習、復習をしているかという質問に対して「している」と答えた生徒の割合は全国、大阪府を下回っている。
- ・「家で学校の宿題をしている」「どちらかといえばしている」と答えた生徒の割合は全国を下回っている。
- ・「新聞を読んでいますか」「テレビの番組やインターネットのニュースを見ますか」という質問に対して、週1～3日程度読んでいるという回答も含めると全国を上回っている。

学校生活・学校での学習状況

- ・「学校に行くのは楽しい」「どちらかといえば楽しい」と答えた生徒は7割を越えている。
- ・「学校で友達と会うのは楽しい」「どちらかといえば楽しい」と答えた生徒は9割を越えている。
- ・「学校で好きな授業はある」「どちらかといえばある」と答えた生徒は7割を越えている。
- ・「学校の規則は守っている」「どちらかといえば守っている」と答えた生徒は9割を越えている。
- ・「話し合い活動をよく行っていた」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は全国を上回っている。
- ・「授業の中で目標が示されていた」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は全国を上回っている。
- ・「道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいた」「どちらかといえば取り組んでいた」と答えた生徒の割合は全国を上回っている。

家庭でのコミュニケーション

- ・「家の人と学校での出来事について話をする」「どちらかといえばする」と答えた生徒の割合は全国を下回っている。
- ・「携帯電話やスマホの使い方について、家の人と約束したことを守っている」「どちらかといえば守っている」と答えた生徒の割合は5割を下回っている。
- ・「テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めている」「どちらかといえば決めている」と答えた生徒の割合は2割を切り、全国を下回っている。
- ・「家からは授業参観や運動会などの学校行事に来る」「どちらかといえば来る」と答えた生徒の割合は全国とほぼ同じである。

自尊心・規範意識

- ・「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、嬉しかった」「どちらかといえば嬉しかった」と答えた生徒の割合は8割を越えている。
- ・「人の役に立つ人間になりたい」「どちらかといえばになりたい」と答えた生徒の割合は9割を越え、全国とほぼ同じである。
- ・「ものごとを最後までやり遂げて嬉しかった」と答えた生徒の割合は7割を越え、全国とほぼ同じである。
- ・「難しいことでも、失敗を恐れず挑戦している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒の割合は7割を越え、全国とほぼ同じである。
- ・「自分にはよいところがある」「どちらかといえばある」と答えた生徒の割合は7割を越え、全国とほぼ同じである。

3. 今後の取組みについて

平成19年から始まった「全国学力学習状況調査」は、実施教科は国語と数学の2教科での実施となりました。したがって、測定結果は学力の一部であり、学校における教育活動の一側面といえます。しかしながら、調査によって判明した課題点は、本校の教育活動全体の工夫・改善に大いに参考となる資料ととらえ活用いたします。そして、「すべての生徒に基礎事項の定着と、仲間と共に学ぶ喜びを育てる」という本校の重点目標の推進に生かすよう取組みを進めてまいります。

ご家庭におかれましても、学習活動の基盤となる基本的な生活習慣(早寝・早起き、規則正しい食生活、家庭学習の定着など)の確立やお子さまの成長にとって不可欠なさまざまな生活体験を通して、「生きる力」を育てていただきますようお願いいたします。今後も家庭と学校と密接に連携を図りながら、教育活動を進めていきたいと思っておりますので、ご理解ご協力よろしくようお願いいたします。